

戦国大名 権力構造の 研究

村井良介 著

A5判・四三〇頁
定価 七、三五〇円
(税5%込)

ISBN978-4-7842-1610-9



【二〇一二年三月刊行】

戦国大名権力の動向は、近世に向けた一貫した過程と捉えることができるのか？ 本書は、主に毛利氏を事例に、戦国大名、「戦国領主」の重層的な権力構造の分析から、戦国期の権力諸関係の特質を、理論的かつ実証的に描くことにより解明する。

● 内容目次 ●

序章 戦国期大名権力研究の視角

戦国大名の概念規定をめぐって／「戦国期守護論」について／戦国大名と「戦国領主」／本書の論点と構成

第一章 毛利氏の山陰支配と吉川氏

吉川氏の発給文書／吉川氏の「家中」と毛利氏

第二章 毛利氏の山陰支配と小早川氏

尾道浄土寺鐘相論／小早川氏と山陽の「戦国領主」／小早川「家中」と毛利氏

補論一 「小早川家座配書立」について

第三章 毛利氏の「戦国領主」編成と

その「家中」
「戦国領主」の「家中」の様相／「戦国領主」の「家中」と毛利氏

第四章 一六世紀後半の地域秩序の変容

備後地域における地域経済圏と「領」／備後地域における地域経済圏の展開／備後地域の「戦国領主」と地域経済圏／一六世紀後半における備後南東地域の変容

第五章 戦国期における

領域的支配の展開と権力構造
「戦国領主」の「領」／大名支配下での領域支配の展開／領構造がもたらす戦国期の特質

補論二 中近世移行期における

大名権力の性格づけをめぐって
片桐昭彦『戦国期発給文書の研究』を素材に／片桐昭彦『戦国期発給文書の研究』の検討／中近世移行における武家領主権力の支配の性格づけをめぐって

終章 戦国期の特質を考えるための権力試論

戦国期研究における支配の二元論／中世史研究における支配の二元論／戦国期の構成的支配と権力関係

むらい・りょうすけ：一九七四年大阪府生。一九九七年、京都府立文学部史学科卒業。二〇〇五年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程日本史学専攻修了。博士（文学）。二〇一〇年より神戸大学大学院人文学研究科特命助教。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	戦国大名権力構造の研究	本体7,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1610-9	
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				
					書店番線印